**再改訂版「放射線副読本」撤回署名、賛同団体・協力者のみなさまへのお知らせ（2019,8,15）**

**8/29「放射線副読本」撤回、署名提出(第1回)、政府交渉、交流会**

**1.全国で運動が進んでいます**

　滋賀県野洲市では子どもたちに持ち帰らせた「副読本」をひとまず回収しました。市議会での追及に応えたもので、「被災者の声が書かれていない、廃炉作業などの今後の課題を記載せず安全性ばかり強調している、内容に高度なところがある」を理由としています。

　全国で、子どもたちに渡したり持ち帰らせたりしていない地域・学校はかなりあると考えられ、大阪府でもたくさんの市町で教育委員会や学校への働きかけが行われ、少なくとも4市で配布を留めています。署名活動も市民団体、生協、労働組合で行われています。

　小金井市では6月、市議会が政府に対して反対の意見書を議決・提出しました。反原発団体の「浜岡原発の再稼働を許さない静岡県ネットワーク」、「上関原発止めよう！広島ネットワーク」はそれぞれの県教育委員会などへ反対の意見を申し入れており、たくさんの反原発団体が撤回署名の賛同団体になり署名活動を行っています。全国に拡がる自主的な運動は紹介しきれないほどです。

**2.復興庁と文科省への質問書の要点は**

**福島みずほ事務所の紹介で署名提出、交渉を行います。(質問書は別紙)**

**＜復興庁＞初めての交渉**

**[1][2][3][4]で「放射線副読本」約2億円の復興予算からの支出の根拠**を問い、政府与党国会議員の要求に基づくものであることをはっきりさせ、学校教育に政府が介入することを責めます。内容に問題があるだけでなく、「難しすぎて」使えないものを配布した**不適切な予算でもあり、2億円は避難者の住宅支援などに回すべきである**と求めます。全国からの批判を受け止め、「副読本」を撤回するよう求めます。

**[5]**では「副読本」を生んだ政府決定であり、「副読本」のネタ本ともなっている**「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」(以下、「強化戦略」)の重大な問題点を取り上げて追及します**。専門的に回答できる人の出席を確保する意味もあります。

**[6]**では、「リスクコミュニケーション」で、事故の被害をないことにすることへの批判です。「副読本」は**いじめや被害を一層大きくする恐れがあると批判します。**

**<文科省＞2回目、内容の誤りを確認する。学校教育の公正の視点からも追及します。**

 **[1]　学校教育への不当な介入、文科省の答えは？**

学校教育の内容は「指導要領」で決められ、「教科書」が作られています。教科書は文科省の検定に合格しなければなりません。

指導要領の中学校理科に「放射線」が入れられた(原子力学会等の要求で)2011年度には、まだ教科書が不十分として「放射線副読本」を原発推進の「電源特別会計」を使って研究開発局が「希望する学校へ」送る計画でした。3.11事故で急遽、大増刷、小中高全員に送ったのです。これは批判を浴び、初等中等局が2013年度に修正版(1回目の改訂版)を作った形でした。

今や、すでに教科書は指導要領に沿って作られています。副読本は必要ありません。作ってはいけないのです。しかも、今回、初等中等局が作ったため、「副読本」の「内容にまでとやかく言えない」と、全国の教育委員会を困らせています。文科省は「強化戦略」と国会での追及に従って、学校現場に政府見解を押し付けるという学校教育への不当な介入をやってしまったのです。文科省がどう答えるのか聞きましょう。

 **[2]　「副読本」の内容の批判**

　この「副読本」は詐欺の見本のようです。ウソではないことをうまく並べ、しかし放射線の危険性の大事なところは言わないで、なんとなく「大丈夫」そうな雰囲気をつくっています。

なかでも、最も重要と考えられる部分を質問しました。被ばくの危険性については、国の「統一見解」と答えると思われますが、会場からの意見で厳しく追及したいと考えています。詐欺のような書き方をどのように弁明するのか注目です。

前回、議論したことの確認を3点(★)求めています。①「100ミリシーベルト放射線を人体が受けた場合には」としきい値があるかのような書き方の誤り　②被ばくのリスクと食事のリスクを比較する誤り　③食品安全に関する基準の表を「世界で最も厳しいレベル」とする誤り。

最後に、子どもの命と人権を守る文科省であるかどうか、追及します。

**3.交渉の後、全国交流会 　学習会や議会・教育委員会・学校と話し合いを！**

　関東の人たちにはぜひとも参加お願いします。関西からもかなりの人数が出席予定です。広島、静岡、福島からも参加の予定です。教職員と退職教職員、市議会議員も参加します。運動を拡げ、大きくするために経験を共有し、知恵を出し合い、いっしょに運動を作りましょう。

**参加できない人からの情報は代理で報告します。事前にお知らせください。**

**8月29日(木)参議院議員会館(B109)**

**10：15　通行証配布(玄関)、打合せ**

**10：30－12：00　復興庁（署名提出と交渉）**

**12：00－12：30　休憩**

**12：30－13：00　作戦打合せ**

**13：00－14：30　文科省（署名提出と交渉）**

**15：00－17：00　交流会(運動の交流と今後の進め方を中心に)**

当日参加も可能ですが、事前に稲岡までご連絡いただいた方が準備しやすいです。途中で入館する方は受付でB109に電話してもらってください。係の人が通行証を入場口までお届けします。

**主催：地球救出アクション97、原子力資料情報室。ヒバク反対キャンペーン**

連絡：稲岡美奈子　090－7090－1857、Eメールminako-i@estate.ocn.ne.jp

**☆全国から署名が毎日送られてきます。カンパもありがとうございます。**

**署名数はまだ1万の手前です。生協や労組へも頼んでみてください。**

**「放射線副読本」撤回のための「資料集」作成、200円です。「副読本」も縮小印刷しました。**

**各地で自主的に学習して、運動を始めるのに役立つと思われます。目次を別紙に付けます。**

**お知らせあれば送ります。**